

いしづち

愛媛労災病院広報誌第20巻第2号

（通巻第96号）

2021年4月2日発行

発行人：院長 宮内文久

理念

当院は働く人々のために、そして
地域の人々のために信頼される
医療を目指します

基本方針

1. インフォームドコンセントの実践
2. 安全かつ良質な医療の提供
3. 勤労者医療の推進

当院では、医の倫理と病院の理念に基づいた医療を積極的に
推進していくため、患者さんの基本的な『権利と責務』を、
以下のように宣言します。

【患者さんの権利】

- 1) 人としての尊厳を保ちながら、良質の医療を受ける権利
- 2) 十分な説明と情報提供を受け、自らの意思で治療法の
決定やセカンドオピニオンを希望する権利
- 3) 個人に関するプライバシーを保護される権利

【患者さんの責務】

- 1) 疾病や医療を理解するよう努力する義務
- 2) 医療に積極的に取り組む義務
- 3) 快適な医療環境づくりに協力する義務



アレルギー疾患（主に喘息）における
アレルギー性炎症と刺激閾値 …… 2
地域医療連携室のご紹介 …… 3

骨密度検査のご紹介 …… 3
第7回 市民公開講座を開催いたしました …… 4

アレルギー疾患 (主に喘息) におけるアレルギー性炎症と刺激閾値

呼吸器内科部長 塩出昌弘

アレルギー疾患 (主に喘息) を理解するにあたっては、「アレルギー性炎症」と「刺激閾値」の考え方を理解することが重要です。今回はこの両者に絞って解説します。

図1. は喘息の患者さんにアレルギーの原則を説明している図です。喘息の患者さんは山の頂上にいるのと同じ状態です。コントロールが良好であるとアレルギー性炎症がより軽減し、気道過敏性がより改善します。反対に軽くても症状を繰り返すとアレルギー性炎症がより増強し、過敏性がより亢進してきます。

「刺激閾値」は、これ以上の強さの刺激が加わると反応・症状が起こる (喘息の場合は気道狭窄) 限界の刺激の強さです。図2-aの青い線が健常者の閾値で、通常の刺激では症状を起こしません。ある喘息患者さんはこの閾値がレベル③ (赤線) で非常に低く、これを超える刺激では症状 (赤

色のバツ印) を起こします。治療の目標はこの閾値を上げて、反応を起こしにくくすることです。吸入ステロイドは、閾値をレベル⑤に (図2-b)、抗原除去などでの症状コントロールはレベル⑦に (図2-c) 上昇させます。

図3-aに症状がコントロールされ、炎症、過敏性が改善し、閾値が上昇してさらに症状が頻発しにくくなるケース (緑の刺激があっても反応しなくなる)、図3-bに症状が頻発し、そのために炎症、過敏性が亢進し、閾値が低下するためにより症状が頻発するケースを示しています。

喘息の治療においては、アレルギー性炎症を減弱させ、刺激閾値を上昇させるために、1. 増悪因子の除去、2. 長期管理薬剤 (吸入ステロイド中心) の継続、3. 増悪時の対応 (増悪時早期ステロイド増量を含む) の対応が必要です (図4.)。



図1 山の頂上にいるアレルギー患者

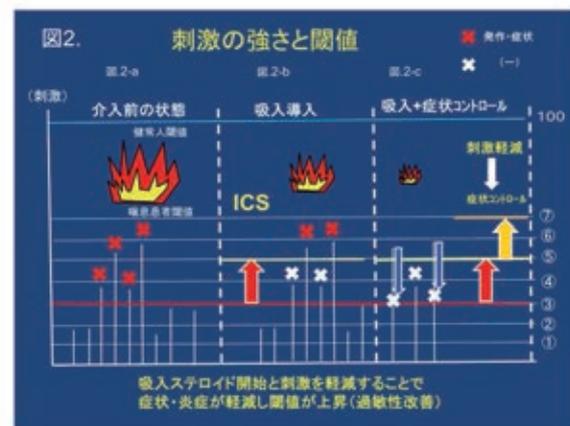


図2 刺激の強さと閾値

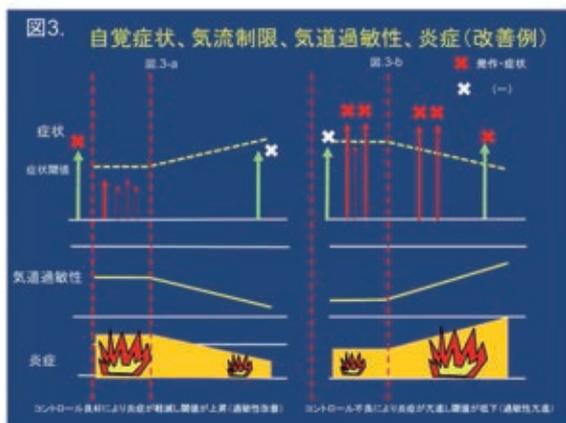


図3 自覚症状、気流制限、気道過敏性、炎症 (改善例)



図4 炎症症状のコントロール

地域医療連携室のご紹介

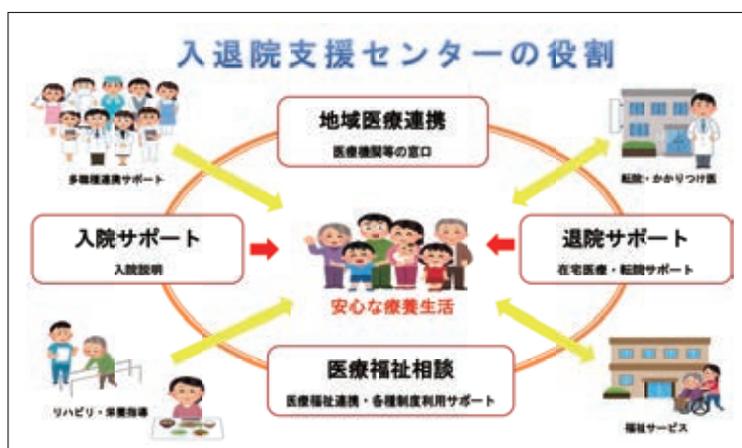
地域医療連携室師長 妻鳥里美

地域医療連携室は、「地域医療連携」と「入退院支援」の役割を担い、看護師、MSW、事務員の8名で、入院前から退院まで患者さんが安心して自宅や住み慣れた地域で生活できるよう連携をしています。

地域医療連携では、前方連携・後方連携はもちろんですが、介護者の方の入院等で在宅の生活が困難な要介護者の方のレスパイト入院を受け入れています。2020年度は、例年行っていた地域意見交換会は、コロナウイルスの影響で

延期しておりましたが、1月と3月にリモートで地域連携意見交換会を、2月には地域連携研修会を実施することが出来ました。今後も皆様のご要望を伺いながら、トピックスも交え開催を致します。

入退院支援センターでは、入院支援看護師が、入院前に予約入院の方の面談を行っており、患者さんやご家族がより安心して入院・治療を受けることが出来るよう支援しています。患者情報を入院前に把握することで退院困難な要因を



評価し、退院調整専任看護師やMSWと連携することで、退院後患者さんが、在宅・地域での療養生活を安心して過ごせるように調整をしています。

地域医療連携室では、院内外の多職種と連携・協働しながら、地域の方々が退院後も安心して生活できるよう今後も積極的に支援に努めてまいります。

骨密度検査のご紹介

中央放射線部長 松浦直行

私たち中央放射線部は主にX線を用いて体の中を可視化し、骨折の診断や病気を発見するための画像を撮影し、医師に提供しています。年間を通じてよく目にする骨折は股関節骨折、腰椎圧迫骨折、手関節骨折です。特に腰椎及び股関節は傷めると動けなくなる大変重要な部位です。年齢を重ねて骨密度が低下し、骨が脆くなることが一因のようです。骨が脆くなる骨粗しょう症は、骨密度検査をすることで、目には見えない骨粗しょう症を診断することができます。当院の装置は、骨折の多い腰椎及び股関節を経時的客観的に調べることができる装置です。半年・1年ごとなど定期的にチェックすることで、自分の骨の状態を身近に感じることが出来ると思います。

元気に歳を取っていくためには、筋力と骨の

健康社会性を保つことが大切とされています。骨の健康状態を調べることができる骨密度検査を気軽な気持ちでお受けください。

コロナ禍により今年の骨密度検査の実施はむずかしい状況ですが、骨粗しょう症の早期発見は重要なことと考えます。

気になる方はぜひ骨の健康チェックにお越しください。



第7回 市民公開講座を開催いたしました

広報委員会 スタッフ一同

令和3年2月28日（日）にハートネットワークコミュニケーションチャンネル701にて、第7回市民公開講座を配信いたしました。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、映像配信とさせていただきます。

毎年楽しみにして、会場に足をお運びいただいた市民の皆さまには心よりお詫び申し上げます。

げます。

映像配信のみの今年度の公開講座ですが、素晴らしい作品に仕上がっております。

是非、下記QRコードからご視聴ください。

来年度こそはコロナが終息し、市民の皆さまの顔を拝見できることを楽しみにしております。

令和2年度 愛媛労災病院 第7回市民公開講座

愛媛労災病院
マスコットキャラクター
AIRO（あいろ）ちゃん

テーマ
健やかに老いる 豊かな人生



次第	
1. 排尿障害について	愛媛労災病院 泌尿器科医師 越智 達正
2. 正しいスキンケアと当院の美容医療について	愛媛労災病院 皮膚科医師 樋口 睦美
3. 心と体を健康に～健やかに老いるために～	愛媛労災病院 理学療法士 成田 雄太郎
4. ロコモティブシンドローム（運動器症候群）について	愛媛労災病院 整形外科医師 小林 弘明
5. 知ってほしい 皮膚ケア	愛媛労災病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 大山 淳子

●主催

独立行政法人 労働者健康安全機構
愛媛労災病院

●共催

新居浜市

広報誌編集メンバー 委員長：福井副院長 委員：山田第2内科部長、今田看護副部長、横井看護師長、山根看護師長補佐、石原看護師長補佐、加地看護師、大成薬剤師、西原作業療法士、正岡診療放射線技師、井上臨床検査技師、稲富総務課長、岸本総務課員、佐々並医事課員、越智総務課員